

2022 年北九州港の貿易概況

区分	全国	九州経済圏	福岡県	北九州港	全国に占める構成比
輸出総額	98 兆 1,750 億円(+18.2%)	10 兆 5,628 億円(+19.0%)	6 兆 8,210 億円(+22.8%)	1 兆 6,542 億円(+20.5%)	1.68%
輸入総額	118 兆 1,410 億円(+39.2%)	11 兆 9,789 億円(+60.7%)	3 兆 9,005 億円(+36.1%)	1 兆 7,261 億円(+40.9%)	1.46%
輸出入総額	216 兆 3,159 億円(+28.8%)	22 兆 5,417 億円(+38.0%)	10 兆 7,214 億円(+27.4%)	3 兆 3,803 億円(+30.1%)	1.56%

2022 年の北九州港（北九州空港含む、以下同じ。）の貿易実績は、輸出総額が前年比 20.5%増の 1 兆 6,542 億円、輸入総額が前年比 40.9%増の 1 兆 7,261 億円、輸出入総額が前年比 30.1%増の 3 兆 3,803 億円となり、いずれも 2 年連続で増加し、過去最大の金額となった。貿易収支は 719 億円の赤字となり、8 年ぶりに赤字となった。

輸出に関して、輸出額の上位 5 品目は鉄鋼、一般機械、ゴムタイヤ及びチューブ、有機化合物、鉱物性燃料であり、これらの合計は 1 兆 644 億円と全体の 64.3%を占めている。国（地域）別にみると、中華人民共和国が前年比 10.4%増の 4,656 億円で、22 年連続の第 1 位となった。第 2 位は大韓民国で前年比 8.7%増、第 3 位は台湾で前年比 15.1%増、第 4 位はインドで前年比 45.1%増、第 5 位はアメリカ合衆国で前年比 37.5%増となった。地域別にみると、東アジア主要地域（中華人民共和国、大韓民国、台湾、香港、ASEAN10 カ国（ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー））への輸出額 1 兆 711 億円が全体の 64.8%（前年比 3.0%ポイント低下）を占めている。

米ドル/円レートが 2021 年末の 115.08 円から 2022 年 10 月 20 日には 150.15 円になるなど、2022 年にかけて円安が大きく進行したことを受け、輸出額が伸長した。加えて、各国でコロナ禍からの経済の回復がみられたことも輸出額の増加に寄与している。特に、2022 年に GDP の成長率が高く、高成長を遂げた ASEAN、インド向けの輸出は、それぞれ前年比 28.9%増、45.1%増と大きく増加した。品目別にみると、国際的な鋼材価格の高騰を背景に、鉄鋼は輸出数量を前年から減らしながらも輸出額が大幅に増加した。

輸入に関して、輸入額の上位 5 品目は石炭、電気機器、天然ガス及び製造ガス、無機化合物、輸送用機器の上位 5 品目であり、これらの合計は 8,402 億円と全体の 48.7%を占めている。国（地域）別にみると、中華人民共和国が前年比 45.2%増の 5,783 億円で 29 年連続第 1 位となった。第 2 位はオーストラリアで前年比 99.7%増、第 3 位はインドネシアで前年比 128.3%増、第 4 位はマレーシアで前年比 110.3%増、第 5 位はタイで前年比 24.7%増となった。地域別にみると、東アジア主要地域からの輸入額 1 兆 848 億円が全体の 62.8%（前年比 1.5%ポイント上昇）を占めている。

石炭、天然ガス及び製造ガスといった主要なエネルギー資源は輸入数量が減少したものの、円安や資源価格の高騰を背景に輸入額が大幅に増加した。また、ウクライナ情勢に端を発したロシアへの経済制裁によってエネルギー資源や原材料の輸入相手国の構成に変化が生じており、国（地域）別輸入額が前年第 50 位であったモロッコが肥料の輸入増に伴い第 19 位に、前年第 74 位であったオマーンが天然ガス及び製造ガスの輸入増に伴い第 26 位に急浮上している。

北九州港の最大貿易相手国は、22 年連続で輸出・輸入ともに中華人民共和国であった。輸出入総額は全体の 30.9%を占めるが、これは前年より 0.7%ポイント低下している。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う上海の都市封鎖、ロシアへの経済制裁に伴う中国国内の内需の保護、米中貿易摩擦等の要因から、2022 年は同国との貿易額の伸びがやや鈍化した。

図－1 北九州港の貿易額の推移

